戦争いや だから行動

戦争法案廃案のため市内では画期的なパレードをする人たち＝23日、伊豆市

静岡 伊豆 富士宮で初パレード

静岡県伊豆市で23日、戦争法案廃案を訴える集会・パレードが初めて行われました。「過去に市内でのデモ行進は記憶にない」と参加者が口をそろえる画期的な行動です。

杉本恵義（71）、富田みほ（78）、河村千鶴子（72）の3氏が少人数でもいいから「戦争イヤ」の声をあげようと呼びかけ、市民や周辺市町から50人が参加。市役所から修善寺駅周辺まで「戦争反対」「安保法案廃案！廃案！」とアピールしました。

出発前集会で富田さんは、「9歳で迎えた終戦では空腹や飢えを体験した。兄は艦砲射撃で負傷し仲間たちは命を失ったそうです。将来ある若者を戦場に送り出す、21世紀になってこんな戦争に向かうなんて信じられない。子や孫のために必ず廃案にさせよう」と訴えました。

伊豆自衛隊父兄会会長の西島信也市議は「会として法案反対の決議をあげた。今まで自衛隊として1人の戦死者も出してこなかった。アメリカの戦争に参加する法案など絶対に許せない」と述べました。

パレード初参加の鈴木綾子さん（30）は「過去の日本の戦争では子どもまで犠牲になった。今の安倍政権はその時代に戻ろうとしていて危機感を感じる。平和な日本を守るために憲法9条を守り、いかさせたい」。初参加の50代女性は「参加するのにちゅうちょがあったが、やってみたら楽しく、大声で訴えられてよかった。世論に訴え政権支持率を下げ、安倍政権を退陣させたい」と語りました。

「憲法守れ」などと訴える参加者たち＝23日、富士宮市

静岡県富士宮市で22日、戦争法案反対のパレードが初めて行われました。小長谷保・前県弁護士会会長が呼びかけ人の一「憲法を守ろう！富士・富士宮市民の会」が主催。参加した140人が浅間大社前の主要道を「憲法守れ」などと訴えアピールすると、高校生が自転車をとめて携帯電話で写真を撮るなど注目を集めていました。

出発前集会のリレートークで、塩川寿平・元静岡県立大学教授は「私は満州引き揚げ児。腐敗した兵士の死体を多く見て、自分も殺し合いの覚悟の日々だった。引き揚げで祖母と妹をなくした。資源と資本のための集団的自衛権は古すぎる。日本国憲法を広げるこそ必要」と力説しました。

小林太郎さん（高等専門学校生）は「私は死ぬことも殺すことも怖い。やりたくない。戦争はしてはいけないと思う。戦争に巻き込まれる可能性がある一人として絶対にこの法案はやめてほしい」と語りました。

鈴木健治さん（富士宮市遺族会幹事）は「遺族は戦争の悲しみをよく知っている。だからこそ言葉だけでなく、アクションしなければいけないと思う」と述べました。

富士宮市と富士市の日本共産党、自民党系、民主党の現職市議がステージに並びあいさつしました。

初めて参加した女性（37）は「みんなで訴える一体感がよかった。幼稚園に通う子どもを将来戦争に関わらせたくない。70年続いた平和をずっと続くようにさせたい」と話していました。

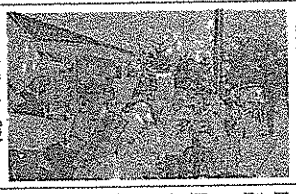
ほうきパレード

石川・内灘

石川県内灘町で23日、「うちなだ・戦争ほうきの会」が呼びかけた「戦争ほうきパレード」が行われました。

内灘町千鳥台の公園から内灘駅まで約50人が片手に「ほうき」を持ち、「戦争法反対」などと書いたプラカードやのぼりを掲げ、パレードしました。「戦争掃き出せ・戦争ほうき」「安倍（首相）を掃き出せ・戦争ほうき」「若者に武器を持たすな・希望を持たせろ」とちょっと変わったコールをしていました。日本共産党の北川悦子町議が参加しました。

パレードに参加した男性（73）は「戦争法案をほうきで掃き出して廃案に追い込む」と述べました。パレードの途中「戦争反対」のコールに合わせて女の子がマンションの2階の窓から「戦争反対」と大きな声で叫んでいました。


ほうきを持って「戦争ホウキ」＝23日、石川県内灘町

おれ、戦争いきたくないぜ

何かしなきゃ後悔する

愛知 春日井で青年集会

「今の政治が許せない」―。愛知県春日井市のJR勝川駅前に22日夕、青年たちの怒りの声が響きわたりました。

尾張中部地域の青年たちが「全国の若者と連帯して自分たちの地域でも戦争法案反対の声をあげよう」と実行委員会をつくって開催。尾張地域では初めての青年行動で、50人を超える青年が参加しました。

リレートークで青年らは「5人兄弟の祖父は3人の兄弟を戦争でとくした。私たちの命は戦争犠牲者から受け継いだ貴重なもの。戦争で奪われるわけにはいかない」「航空自衛隊小牧基地には空中給油機などが配備されている。出撃基地にしてはならない」と訴えました。

集会後、参加者は「安倍政権NO」「憲法壊すな」と書いたボードを掲げ、駅前商店街をウオークしました。

ネットで集会を知り岐阜県多治見市から駆けつけた高校1年生の男子生徒（16）は「クラスで『戦争法案が国会で決まったらヤバイな』『俺、戦争に行きたくないぜ』など話題になっている。集会やデモの参加は勇気がいるけど、何かしなければ後悔すると思い、来た」と話しました。

実行委員長（30）は「集会案内をSNSに掲載したら300件近くアクセスがあった。今日も『見てきたよ』という人が何人もいた」と語りました。

日本共産党の、すやま初美参院選挙区候補、原田祐治春日井市議、渡辺麻衣子北名古屋市議、山本晃介豊山町議が参加し、連帯あいさつをしました。

「戦争法案は廃案へ」と訴える青年たち＝22日、愛知県春日井市

戦争法案反対の思いをのべる参加者＝23日、富山市

米国の戦争 行く必要ない

富山でも宣伝

若者憲法集会富山県実行委員会は23日、富山市のC-C前広場で戦争法案に反対する緊急アクションにとりくみました。SEALDs（シールズ）の呼びかけに呼応したもの。

参加者はそれぞれ、戦争法案反対への思いをハンドマイクで訴えました。23歳の女性は、「人が殺し、殺されるような場所に連れていかれようとしていることがこわい。多くの国民が反対しているのに法案を通そうとするのは民主主義に反する。戦争法案は絶対に反対」と呼びかけました。日本共産党の高橋わたる参院選挙区候補が訴えました。

近くで話を聞いていた男子高校生（17）は、「安保法案の名前は知っていたが、中身は知らなかった。話を聞いて、アメリカの戦争に日本が参加する必要はないと思った。反対」と話していました。

「私たちは安保法案を許しません」と立て看板に書く「あさこはん」さん（仮名）による書道パフォーマンスも行われました。

実行委員会は、30日午後2時から、デモ行進も計画しています。

8/26 赤旗